

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600096		
法人名	社会福祉法人平和会		
事業所名	グループホームうえのまち(東)		
所在地	北上市上野町1丁目7-1		
自己評価作成日	平成28年9月24日	評価結果市町村受理日	平成29年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・近隣地区の方を呼び「ふれあいディサービス」を開催している。その他、毎月1回「うえのまちカフェ」を開き地域の方々の居場所になれるよう取り組んでいる。日中集会室を開放し使用回数は多くないが、会議などで活用していただいている。</p> <p>・同一敷地内にある小規模のレク活動に参加し気分転換や楽しみが持てるようにしている。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/iindex.php?act=onkouhyou_detail_2016_022_kani=true&Ji_gvosvoQd=0390600096-00&Pr_efQd=03&Ver_si_onQd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年10月17日

<p>「グループホームうえのまち」は、東の家・西の家の2ユニットからなり、また、廊下続きに、「小規模多機能ホームうえのまち」が併設する上野町総合福祉施設として所在している。現在、地域交流に力を注いでおり、事業所内の集会室を活用して、交流活動をしている。集会室は舞台付きの小講堂規模の広さがあり、今後一層の地域開放のあり方を考えている。地域交流については、限られた空間の中だけではなく、地域行事に参加したり、認知症予防講座の講師に出向いたり、双方向からの交流を大切にしている。これらは、小規模多機能うえのまちと一体となり取り組んでいる。また、ケアの質向上のため、ホームと利用者家族との情報共有として交換ノート、職員間では「なんでもノート」に、それぞれ気付き・思いを記入することで、確認し合いながら、共有を深めつつ支援にあたっている。委員会(給食・身体拘束・行事・地域交流)活動や、看取りへの取り組みも特記される。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各フロアに掲示し確認している。今年度は職員個々に目標を立て、職員全員で共有できるようにしている。	グループホームの理念は、「家庭的な雰囲気を利用者様らしい生活を送れる様に支援する」とあり、これを基本に一人ひとりの職員が自分の年間目標を立て、ケアに努めている。それぞれが6ヶ月毎に、他者の評価も含め振り返り、更に自己目標に向う取り組みをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「うえのまちカフェ」を月に一度開催し、近所の方々の交流の場となっている。ご利用者も職員と一緒に「カフェ」に出かけ交流している。また、施設の集会室を開放し地域の方に気軽に使っていただけるようにしている。	自治会には地域住民と同じ会員として加入している。集会室を地域に開放すると共に、地域行事の文化祭に作品を出したり、「認知症サポート講座」などの講師を務めたり等々、双方向の交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあいデイサービスを利用し、認知症サポーター養成講座を開いた。認知症に限らず介護全般について話が出来る「わかかの会」の立ち上げメンバーとして、会場を提供し参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	福祉施設を取り巻く社会的な事件や自然災害などの予測できない事態に対応できるよう、近隣の協力関係作りについてアドバイスを頂いている。	会議は2ヶ月に1回、年6回開催しており、記録も保存されている。運営報告、行事報告、外部評価、地域交流、防火対策、研究発表等が取りあげられている。とりわけ、最近の会議では、防災について取り上げられ、近隣からの協力について、具現化に向けての話し合いがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアマネジメント会議に出席し情報を収集している。	講座開催の相談や、情報収集及び利用者にとっての行政手続き等、市の福祉関係担当者とは常に連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員が中心になり勉強会を開催している。拘束の疑似体験やスピーチロックなどの勉強会を行い、適切なケアが出来るようにしている。	月1回の職員会議の時に職員研修の時間を設けて、その時々テーマについて勉強する中で、身体拘束委員会が設定したテーマによって勉強し、身体拘束をしないケアの共有をしている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームうえのまち(東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の資料を配り目を通して。内服の関係で内出血がしやすいご利用者が多いので、就寝前・入浴時に確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用している方はいないが、必要に応じて勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は時間がかかることを説明した上で、記載されている内容を説明し、理解していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会総会や夏祭り、家族交流会などを通じて職員と交流する機会を設け、何でも話していただけるように環境を整えている。状態に変化がある時やケアプラン作成時にご家族に参加していただいている。	家族会議及び交流会は、各々年1回行っており、家族からの声を聞くことができ、また、利用者個人ごとの情報交換ノートに来訪の時に記入していただくことで声を聞いている。運営に関するような意見や声は見られないが、日常生活に関する声はあり、その意図を確認した上で取り上げている。交換ノートの記入スペースの工夫などを考えたいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が話し合い業務で必要な高額備品を毎年購入している。職員会議や部署会議で話し合いが出来るようにしている。。	職員会議・部署会議(GH・小規模多機能)、各委員会及び職員の日常会話の中から等、あらゆる機会を通し、職員の意見を聞き、可能なものは実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場責任者から職員の勤務状況を聞いた上で新人職員の評価を行っている。職員本人と話し合い、本採用に向け更に数ヶ月指導期間を設けている。現在意欲を持って業務にあたっており積極的に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修・実践リーダー研修等各資格取得を積極的に勧めている。研修を受講し資格を取得する事で業務に対する意欲が増し介護技術が向上している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県グループホーム協会の定例会に職員を参加させており、他法人職員の意見交換・交流を持っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居するまで数回面談し、ご本人との関係を深めている。ご本人の要望を傾聴し、不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅での様子やご家族の要望をお聞きし、不安の解消に努め信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	性格、好み、生活の様子を把握し、今必要としているケアを見極めて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	孤独にならないよう、安心して過ごして頂くように共に暮らし、寄り添う関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様方に行事に参加して頂き、一緒に楽しんでもらえるよう工夫している。毎月の手紙や連絡ノートを活用したり、面会や電話で健康状態や生活の様子を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけのエステに定期的に通い、リフレッシュしている。地域の中学校や保育園に出かけ子供達との交流の機会を作っている。	利用者や家族の希望などを踏まえ、ドライブを兼ねながら利用者の馴染みの場所を巡回するコースを設定し、実行している。また、盆や正月に帰宅し、泊まれるような配慮もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り関わりをもてるようにしている。全員が参加できるレクを計画し交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後も相談や支援できるよう説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気分次第で言動が激しく変化するご利用者に対して、話し合いを重ね対応を検討した。研修の一環として、個別に気になることに取り組み、職員全員からアンケートを取るなどしてケアの質を深めている。	利用者の日常の言動から気付いた事をなんでもノートに記入し、全職員がノートを閲覧し、共有している。また、認知症介護実践研修を受けた職員2名による報告研修会を開き、全職員が利用者の意向把握のあり方を共有し、実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活環境、暮らし方を充分に聞き、そのご利用者の生活スタイルが大きく変わらないようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタル測定や普段の会話から、その日の体調を見極めるようにしている。食事や水分の量、排泄、睡眠時間なども把握し、体調の変化に気をつけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族との情報交換ノートを作り、担当者が日々の生活の気づきや変化を詳細に記録し報告している。定期的カンファレンスに参加して頂き現状と今後のケアについて話し合いを持っている。	アセスメント、情報交換ノート、全職員の評価を基に素案を作成し、その素案をケアマネジャー・担当職員・家族が合議し、計画が出来あがり実践、モニタリング、職員全員により、3ヶ月ごとに見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活での気づきをケース記録に残している。少しの変化や何気ない言葉を常に記録する事で職員間で情報共有し、ケアの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、ニーズに対応できるよう、話し合いを持って取り組みを行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームうえのまち(東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	暮らしを楽しむ事ができるように慰問を受けたり、地域の婦人会やボランティアの協力を得て行事に参加している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時、職員が同行し体調の報告やケアの方法を相談している。職員が同行できない時は、最近の様子をメモで渡しご家族が困らないようにしている。	訪問診療が月2回あり、これを受診する利用者は14名、他のかかりつけ医で受診している利用者は4名で、この利用者については家族が支援し、ホームからは情報提供している。また、週1回の訪問看護もある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護を受けている。日常の様子や状態の変化を報告、相談してアドバイスを頂き適切な支援をしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は情報提供書を作成し担当者に渡している。病院のケースワーカーと情報交換し、退院がスムーズに行くよう連携している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人とご家族の意向を確認している。出来る事、出来ない事を十分に説明し、看取りを特別な事と考えずその人らしく過ごせるようお手伝いしている。	「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」によって、その都度における利用者の状況を説明し、その対応ケアについて理解と納得を条件に看取りすることにしており、家族の了解が絶対条件である。昨年は、5人の看取り、この1年間では1人の方の看取りを行った。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の状態確認や対応のマニュアルを作成し、それに基づいて行動できるようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行なっている。自衛消防団を作るため11月中に地域懇談会を開きたいと思っている。前段階として区長に相談しているところである。	上野町総合福祉施設全体の防災計画の中で、年2回の訓練を実施している。昨年の外部評価で、次のステップに向けて期待された内容について、特に、地域住民からの支援体制の確立は運営推進会議の意見を参考に現在進行中である。	現在進行中の件について、可能な限り早く結果を出すことを期待したい。また、2～3年前まで実施していたグループホーム単独の訓練、夜間想定訓練なども実施することが望ましいと思われることから、次へのステップとしたい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの個性、性格を理解し、対応の仕方や言葉使いに気をつけている。トイレ、歩行介助時自尊心をそこねないような声掛けを心がけている。	利用者のスピーチロックはしない、話しをよく聞く、行動は制限せず、受け入れながら本人が考えるのを待つ、大変根気のいることだが、利用者本位に立ってケアすることがもっとも利用者を尊重することである。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えや好みのおやつを選ぶなど、その都度声をかけ決めて頂いている。ご利用者に合わせた声かけを工夫し、答えやすいようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事時間は利用者のペースに合わせて対応している。体操等の趣味活動への参加を促し、希望に添える内容を準備している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪に行ったり、自分で着たい衣類を選んだりしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを把握し、盛り付けの量を調節し食事形態の検討を行っている。食前の準備、盛り付け、配膳を一緒に行うことで食べる事への楽しみ、意欲が増している。	食事の献立は、法人本部の管理栄養士が立て、調理は、隣接する小規模多機能の厨房で行い、ホームでは盛り付け、配膳をする。利用者の好み等反映しているが、時々ホームのキッチンを活用も望まれる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の観察、把握を行い、適量の盛り付けを行っている。水分新聞を発行し職員全員が水分摂取について取り組めるようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。仕上げ磨きの際には、歯間ブラシ、ガーゼ、口腔ケアスポンジ等の物品を使用して、それぞれの口腔内環境に合わせたケアを行なっている。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームうえのまち(東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導の他に失禁予防の為にこまめに声をかけたり、訴えやサインを見逃さずに誘導を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく誘導している。自立に向けてできるだけトイレを利用する様にしており、利用者によっては、トイレまで誘導介助し、介助者はその場を去り、利用者は用が済んだら備付けのボタンを押し、介助者を呼ぶ方法などもとっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分量のチェックを行い、水分を多めに摂ってもらったり、散歩や体操への参加を促している。便秘傾向にある方は、医療や看護に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回は必ず入浴できているように配慮しながら体調や気分の状態に合わせて、気持ちよく入浴していただいている。	浴槽は、普通浴槽と特殊浴槽の2種類を準備しており、毎日入浴は可能であるが、少なくとも週2回は入浴する様にローテーションを組んでいる。入浴時間は、決まっているが、希望を尊重している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、夜間問わず横になって休めるように、傾眠がちな方や疲れやすい方の訴えに応じて居室へ誘導している。居室の照明や空調調節を行い、快適な環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助を行う上で、効能や副作用を自ら調べて学ぼうと努力している。内服薬の変更時には副作用について観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や意欲に合わせたレクリエーション、役割を考えて支援を行っている。プランターで野菜を栽培し、一緒に世話をしたり、農作業経験のある方には、職員が指導してもらおう事もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行きたい方には、一緒に行ったり毎月ではないが、ドライブの予定を立てて出かけている。自宅で農作業をすることを生きがいとしている方は、家族に協力してもらい外出している。	近くにある公園や事業所周辺の散歩など、日常的に実施しているが、利用者一人ひとりの体調によって異なることはある。利用者の気分転換のため、できるだけ外出を心がけている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームうえのまち(東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は難しい為、職員で行っている。欲しいものがある時は、家族へ報告して購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、ご本人が希望される事はない。毎月、職員が日々の様子を書いた手紙を写真も添えて送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が生活しやすい動線を考えた家具の配置を行い、窓からの光や季節を感じられるような座席を考えている。壁には季節に合わせた装飾を行っている。	季節感を出すための工夫に心がけている。例えば、ぶどう、ひまわりを表現した利用者の折り紙、季節の花などの掲示や飾り、採光の配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の気分や体調に合わせて、過ごしていただく場所を考えており、馴染みの関係で会話が出るような席や、ひとりでゆっくり休める席、空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物や、思い出の物を飾ったり、過ごしやすいように家具を配置し、それぞれ個性のある居室となっている。	持ち込みは制限せず、思い思いの品物を持ち込み、それぞれ工夫し、個性的な居室づくりをしていた。野球をしている孫の写真とチームメンバーの顔写真、活躍の新聞記事が目をついた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」を無くしてしまわないように、安全に生活していく為に、ぶつかりやすい所には保護テープを貼ったり環境整備を行い、安全な生活空間作りを行っている。		